

かお・人・interview

2022年7月26日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
福岡国道事務所 所長

仲谷俊昭氏

NAKATANI Toshiaki

福岡県内の国道6路線を所管する福岡国道事務所。管内には九州経済の要である福岡市が位置する。慢性的な交通渋滞、狭い歩行空間など県内の道路が抱える様々な問題を解決するため道路の整備・維持管理には余念がない。博多バイパスの立体化も着手することになり、交通渋滞緩和に大きな期待がかかる。また、地域活性化の場として注目されていた春吉橋架替事業も今年の4月に完成。今後取り組む道路整備や課題などについて新任の仲谷所長から話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

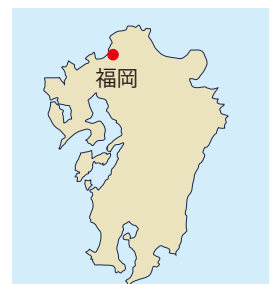
当事務所が管理する直轄国道を適切に管理するとともに、実施中の事業を着実に推進するのはもちろんですが、次世代の希望につながる道路計画を考え、実現に向けて進めることが重要です。地域の課題を見極め、その解決に向けて対応するという責務に対し、事務所長として身の引き締まる思いです。



▲完成した春吉橋（天神側から）

ネットワーク整備以外にも、短期間でスピーディーに対応可能な、道路空間の利活用に関する取組（ゾーン30プラス、地域の賑わい創出のためのほこみち制度、道路空間の再構築、安全で快適な自転車利用環境の創出、新たなモビリティの利用環境の整備等）は、ひとつでも在任中に成果が出るよう努力したいと考えています。いずれの取組も直轄国道だけで考えるのではなく、ソフト面・ハード面合わせて国・県・市町村との連携を意識しながら課題解決にあたるのが不可欠です。その前提として、広く経済界や市民の声を聞き、地域が求める道路のニーズや課題の把握に努めたいと思います。

そして、何よりも重要なのは防災・危機管理です。今や「忘れる前にやってくる」災害に対し、迅速かつ確実に対応できるよう事務所として備えるとともに、日頃から積極的に関係者とのコミュニケーションを行い、信頼関係の醸成や連携強化を図る。非常時の対応力を地域とともに高めていくつもりです。



Q九州や福岡県とのかかわりや 赴任地の思い出

平成16年に入省し、最初の勤務地が鹿児島国道事務所でした。九州勤務は18年ぶり、初めて勤務する福岡ですが、着任早々4月9日には国道202号の春吉橋新橋完成式を執り行わせていただきました。地元の方と触れ合う中、パワーやチャレンジ精神の高さに驚くとともに、まさに「日本で一番元気な都市」と言われる福岡の勢いを感じています。当事務所の先輩方が綿々と引き継いできた思いを継承するとともに、外から来た人間だからこそ先入観や思い込みなく、福岡・九州の持続的発展に資する取組を一つ一つ考え、実行していきたいと思います。

これまでの道路局勤務、前職の栃木県庁勤務でも貴重な経験をさせていただきました。ですが、自分自身の価値観が大きく変わったのは、外務省(ロサンゼルス総領事館)に出向し、アメリカで生活した3年間です。例えば、交通ルール一つとっても、右側通行をはじめ、赤信号でも右折可(日本だと左折可)、信号のない十字路の多くがALL WAY STOP(全方向停止)で到着順に発車、踏切では止まらない、高速道路のカープールレーンなど。国が違えば規則が全く違います。働き方についても、真の「ワークライフバランス」を初めて実感しました。「常識を疑え」とよく聞きますが、肌感覚で実感できたのは貴重な経験だったと思います。

Q福岡国道事務所の紹介

当事務所の管理道路の総延長は292.8km。九州の大動脈であり、1日最大10万台以上の交通量が観測

される区間もある国道3号をはじめ、201号、202号、208号、209号、210号を管理しています。他に、バイパス整備等の改築事業、交差点改良や歩道整備等の交通安全事業、電線共同溝整備等の無電柱化事業のほか、道路の維持管理やメンテナンス、防災・減災対策等に取り組んでいます。

DXによる生産性向上は、これまでの助走から加速化していく世の中にあって、国道事務所においても、よりよい行政サービス提供のため、DXによる働き方改革・業務効率化や、新技術・データを活用した道路の維持管理等を進めることは必須です。

その際に起こる「挑戦→問題発生→軌道修正」のサイクルは避けられませんが、試行錯誤しながら新技術の導入や技術力向上を図る上で、福岡国道事務所は、その役割を率先して担うべきだと考えています。

Q令和4年度の事業概要

●国道497号西九州自動車道「今宿道路」の整備：



▲西九州自動車道の整備によって、災害時の代替路機能が強化される

▲春吉橋完成式



福岡市から糸島市を經由して唐津、伊万里、佐世保へとつながる高規格幹線道路の一部を構成する道路で、九州北部の地域経済の活性化や、移動定時性の確保に大きく寄与します。

●国道201号「八木山バイパス」

4車線化：

福岡都市圏と筑豊地域を結ぶ幹線道路で、篠栗IC～筑穂IC間の令和6年度完成を目指し、工事を推進します。

●国道3号「鳥栖久留米道路」の整備：

久留米都市圏の環状道路を構成する道路で、市内の交通混雑緩和が期待されます。

●国道3号「博多バイパス」

(下臼井～空港口)の立体化整備：

今年度から着手。輻輳する交通を適切に機能分担することで、渋滞緩和や安全性の向上を図ります。

八木山バイパス(筑前山手橋 R4年 4月)▶

▼今宿道路の整備



国道3号の渋滞状況▶
(久留米国分町)

Q地域との連携・協働について



▲道守

福岡県内には、道路の植栽の手入れや美化清掃活動を実施されている『道守』の方々約17,200人いらっしゃると思っています。私自身も各市町での活動に参加させていただき、想像以上に空き缶や空き瓶・たばこの吸い殻が捨てられているのに驚きました。地域の皆さんのおかげで快適な道路環境が保たれているのは、大変ありがたいことです。

博多バイパス
立体化整備イメージ▶

今宿道路は、福岡市から佐賀県武雄市の一部を形成する延長23.3kmの高規格幹線道路です。ここを整備することで九州北部地域の地域経済の活性化や、移動定時性の確保に大きく寄与できます。

△福岡市と他都市の連携強化を担う今宿道路(真方交差点)



▼福岡道守活動



▲久留米道守活動



▲大川道守活動



行政とともに地域の方々が少しずつ力を合わせ、自分の街に対する誇りと愛着を養いながらまちづくりに取り組む、素晴らしい

活動がここにはあります。当事務所としてもできる限り支援をさせていただくとともに、私自身も時間が許す限り参加したいと思います。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

インフラの整備・管理を通じた豊かで活力のある地域の形成や、気候変動の影響により激甚化・頻発化する自然災害に対応するためには、行政だけでは仕事はできません。言うまでもなく、「地域の守り手」である地元建設業の力が不可欠です。近年の人手不足や技



▲九州で初めて定置式水平ジブクレーンを用いた試験施工

能者の高齢化と後継者不足など建設業を取り巻く環境が厳しさを増す中、担い手の中長期的な育成・確保を図るため、発注者としても、建設業の働き方改革や生産性向上、魅力発信を進めることは急務であると認識しています。

今年度も引き続き、インフラ DX の推進、週休 2 日工

事の普及・拡大、工事や業務の発注・管理における平準化や適正な工期設定など、さまざまな取組を行っていきます。業界の皆様にも、現場の創意工夫や ICT 施工など、より一層の生産性向上や建設業の魅力発信のチャレンジに期待します。その上で、ぜひ現場や経営の状況、行政へのご意見・ご要望等もお聞かせください。対応の可否は別として、行政と建設業が大事なパートナーとして信頼関係を築く上で、お互いの思いや考えを理解することが重要だと考えています。

Q 趣味や健康法、座右の銘について

趣味はいろいろありますが、長く続けているのは、海外旅行、ゴルフ、そして合唱です。海外旅行は幅広い価値観に出会える場所だと思っています。今まで約20カ国訪れましたが、いつもいろいろな気づきがあり、自分を成長させてくれます。ゴルフも長く続けており、練習にも相当な時間を割いてきたのですが、それに見合うスコアになっていないのが残念なところです。

音楽は、幼少時から楽器(ピアノやフルート)に触れていました。ただ、魅入られるまではいかなかった。それが一変したのは合唱に出会ってからです。大学では学生指揮者も経験し、生活の全てを音楽に捧げて留年するほど夢中になりました。入省してからも、社会人合唱団に所属し、職種や年齢を超えてさまざまな人たちの出会いを楽しんできました。コロナ禍が落ち着いたら福岡でも歌いたいと思っています。

座右の銘は、アントニオ猪木氏の言葉「迷わず行けよ、行けばわかるさ」(「道」より)です。保守的でネガティブな気持ちが強くならないように、挑戦する力、踏み出す勇気を意識しています。

プロフィール



出身地：大阪府
生年月日：昭和52年11月2日（44歳）
H16年4月 国土交通省入省
(九州地方整備局 鹿児島国道事務所)
H21年9月 道路局企画課 企画第一係長
H24年3月 外務省在ロサンゼルス日本国
総領事館領事

H27年4月 中部地方整備局道路部 道路計画課長
H28年4月 道路局企画課 課長補佐
H30年7月 道路局国道・技術課企画専門官
H31年4月 栃木県県土整備部 道路整備課長
R3年 4月 栃木県県土整備部 次長
R4年 4月 現職